

にんぎょうとうげ



発行： 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
バックエンド研究開発部門
人形峠環境技術センター 総務課
岡山県苫田郡鏡野町上齋原1550番地
電話 0868-44-2211 FAX 0868-44-2502

平成29年度事業報告

人形峠環境技術センター(以下「センター」という。)は、ウラン取扱施設の廃止措置や鉱山関連施設の閉山措置を継続しつつ関連する技術開発等を進めてまいりました。

業務の実施にあたっては、安全確保を最優先とした効率的な業務の推進に努めました。また、地域社会との共生及び成果普及への取り組みなどを継続しました。

昨年度公表した「ウランと環境研究プラットフォーム」構想については、安全・安心や地域社会への貢献等の視点での意見・提言をいただく場(ウランと環境研究懇話会)を設け、今年度は6回にわたり開催しました。懇話会で頂いたご意見・提言は、平成30年度以降の事業計画へ反映します。

平成29年度のセンターの実施状況は以下のとおりです。

1. 事業(開発・研究等)に関すること

- 1) ウラン濃縮原型プラントは、設備の停止作業等、解体作業を始めるための準備を実施するとともに、廃止措置の計画認可申請に向けた準備を実施しました。
- 2) 製錬転換施設及び解体物管理施設は、内容物調査、非破壊測定、詰替え及び不要物品等の処置を計画のとおり実施しました。
- 3) 濃縮工学施設の設備の解体作業は、年次計画のとおり実施しました。クリアランス対応、廃棄物処理の基礎研究は計画のとおり実施しております。

- 4) 鉱山施設は、適切な維持管理を継続しました。鉱さいたい積場に流入する坑水の低減化や覆土の安定性に係る調査を実施しました。
- 5) センター各施設、設備及び放射性廃棄物の安全かつ適正な管理を継続しました。
- 6) 東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故の収束に向けた対応として、除染除去物等の放射能濃度測定方法の検討や放射線や原子力に対する正しい理解を深めてもらうための活動等を継続しました。

2. 安全確保・環境保全に関すること

- 1) 「業務・品質マネジメントシステム」の確実な運用、潜在的リスクへの対策、基本動作の徹底及び現場でのコミュニケーションの活発化等を実施し、安全確保、法令遵守を最優先とした事業活動を継続しました。
- 2) 省資源への取り組みとして「ダイエツプロジェクト」を推進し、地球温暖化防止等、環境に配慮した事業活動を継続しました。

3. 地域・社会への対応に関すること

- 1) 地域のイベントへの協力及び広報活動等により地域と積極的なコミュニケーション活動を継続しました。
- 2) 岡山大学や津山高専、鏡野町役場、地元企業等の連携を推進しており、「つやまイノベーションセンター」への支援及び地元産業との共同研究等に取り組んでおります。
- 3) ホームページ等を活用し、積極的な情報公開を行いました。(計画管理室)

人形峠自然百景

『ふきのとう(落の臺)』

キク科フキ属の多年草で日本原産の山菜で全国の山野に自生している。水が豊富で風があまり強くない土地を好み繁殖する。

早春、葉より先に花茎が伸び出す。これを「フキノトウ」と呼んでいる。人形峠では、3月中旬頃より雪解けの路地に多く見られ、独特な芳香があり、早春の山菜の食材として利用される。



シリーズ 人形峠 今昔物語

～第6回「人形峠環境技術センターの従業員集合」～

今年度は、人形峠環境技術センターの開所60周年を迎えた記念の年でもあり、これまで、人形峠の今昔を写真等でシリーズで紹介してきましたが、最終号となる今回は、現在の人形峠を支える従業員を紹介します。

